

夢の翼、羽ばたくとき

ミスター・インディ

トビリモ族の少女・カリン

◆政府秘密機関

Mr. 1

Mr. 2

Mr. 3

Mr. 4

Mr. 5

◆悪の組織 ルワ・インダ

ボス

ルワ1

ルワ2

ルワ3

ルワ4

◆トビリモ族

トビリモ1

トビリモ2

トビリモ3

トビリモ4

トビリモ5

S1 オープニング

音楽が流れて、幕が開くと、みんなが並んでる。

ルワ1

そこはひよっとすると、世界で一番高い山の頂きかもしれない。

ルワ2

そこはひよっとすると、世界で一番深い海の底かもしれない。

ボス

どこまでも続く深い森の中かもしれない。

ルワ3

見渡す限りの砂漠かもしれない。

ルワ4

だけどそんなどこか、だれも知らない冒険の地に、きっと私たちの探し求める宝が眠っている。

Mr. 1

人はそれをバカな夢というかもしれないけれど、それでも私はそんな夢を見続けたい。

Mr. 2

だって、夢に終わりはないんだから。

Mr. 3

いつかこの宇宙が広がることをやめ、

Mr. 4

熱く輝く星々が冷たい石ころになったとしても、

Mr. 5 夢の中ではきっと空は青くて、大地には緑が生い茂っている。
インディ だから僕は夢を見るのです。
カリン 果てしない夢を。
みんな だれも見なかったことのない、宝を求めて。

トビリモ族だけを残して、みんな、いなくなる。

トビリモ4 その村には、一つの伝説がありました。

トビリモ5 村の真ん中に立つ、一本の木。

トビリモ3 その木は、三百年にたった一度だけ、たった一つの実をつける。

トビリモ2 知恵の木の実と言われるその実を食べたものは、この世でもっとも賢い人間になれるのです。

トビリモ1 かつて人々は、その実をめぐって激しく戦ったといえます。

トビリモ2 そして、歴史に記されたその戦いから三百年。

トビリモ3 再びその実がなるときが来たのです。

トビリモ1 戦いの時が来たのです。

トビリモ族、いなくなる。

S2 ジャングルの中

ここは、いかにも冒険が待っていそうな、ジャングルの中だ。
その中を、必死に逃げてくる一人の女の子がいる。カリンだ。
それを追っているのは、もちろん悪役、ルワ・インダだ。

ルワ・インダ 待てー！

ルワ・インダ、カリンを取り囲む。

ルワ1 よーし、捕まえたぞ、小娘。

ルワ2 オしたちから逃げられると思っていたのか！？

ルワ3 まったく、あたしたちに逆らうとはいいい度胸ね。

ルワ4 このおしおきは、村に戻ったらビシビシやってあげるから、覚悟なさい。

ボス マテ！

ボス、出てくる。

ルワ・インダ ボス！

ボス ボス！

ルワ・インダ えっ！？

ボス ボス！

ルワ・インダ ははっ！

ルワ1 さ、さすがはボスだ。

ルワ2 ああ、恐ろしいことを考えておられる。

カリン　　なんて言ったんだろう？
ルワ3　　おだまり！あんたみたいな小娘には分かりっこないわ。
ルワ4　　ボスのありがたいお言葉を聞きたかったら、もっと人生経験を積むことね。
カリン　　子供に言われたくない。
ルワ3・ルワ4　　ええい、おだまり！

ルワ・インダは、カリンを捕まえようとするんだけど、カリンは必死に逃げている。
そこに駆けつけてきたのが、政府秘密機関ムクトのメンバー！

政府秘密機関　　お待ちなさい！

ルワ・インダ　　お前たちは！

Mr. 1　　マヤノラカタ政府からの命令よ。あなたたちを逮捕します。

ルワ・インダ　　なに！

Mr. 3　　あなたたちがラカタ山の麓にあるトビリモ村のトビリモ族を捕まえて、

Mr. 2　　奴隷のように働かせていること、知らないでも思ってるの？

ルワ・インダ　　バレたか！

Mr. 4　　お嬢さん、私たち、国際政府秘密機関ムクトが来たからにはもう大丈夫です。

Mr. 5　　トビリモ族は私たちが必ず助けてあげます。

ルワ1　　お前たちに助けられるかな？

ルワ2　　いったいどうするつもりだ？

Mr. 1　　こつするのよ。

政府秘密機関は、自信満々だ。

じわじわとルワ・インダにせまっていったかと思うと、突然、悪口を言いまくりはじめた。

ルワ・インダ　　えーい、うるさいー！

カッとなったルワ・インダは、思わずカリンのことを忘れて、政府秘密機関と戦い始める。

カリンはそのすきにコッソリ逃げようとするんだけど…残念！ボスに見つかった。

ボス　　☀️☔️！

ルワ3　　あ！あんた！

ルワ・インダは、またカリンをつかまえた。

政府秘密機関　　お嬢さん！

ルワ3　　そいつらの相手はあとよ！

ルワ4　　今はまず、このクソ生意気な小娘を連れて帰るのが先よ。

ルワ1　　ちえっ、しょうがねえな。

ルワ2　　おい、ムクムク！

政府秘密機関　　だれがムクムクだ！

Mr. 3 ムクトよ、ムクト！

Mr. 2 国際政府秘密機関よ、かっこいいでしょ！

ルワ・インダ 長い。

政府秘密機関 ガーン。

ルワ・インダ 難しい。

政府秘密機関 ガーン。

ルワ・インダ 意味わからん。

政府秘密機関 ガーン。

ルワ2 こいつを助けたければ、トビリモ村まで来るんだな。

ルワ3 なんなら相手してあげても、よくってよ。

政府秘密機関 なにこの上から目線！

ルワ1 それじゃあ、

ルワ・インダ さらば！

とうとう、カリンがルワ・インダに連れ去られようとした、その時。さっそうと現れたインディが、カリンを助けたんだ。

ルワ2 しまった、小娘が！

ルワ4 あんた、いったい何者！？

インディ オシの名はインディ。偉大な考古学者にして世界をまたにかけた冒険家だ。

みんな 自分で言う？

インディ 悪いけど、この子を渡すことはできないよ。

みんな なに！

インディ 知恵の木の実を手に入れるには、ぜったい必要な子だからね。

ルワ1 てめえ…！

ルワ2 なぜそのことを！？

インディ あやしげな伝説について、このボクが知らないことはない！

みんな オカルトマニアだ！

インディ 道を開けてもらおうか！

ルワ3 通れるもんなら通ってみなさい！

ルワ・インダが、今度はインディにせまっていく…。

インディ あ！

みんな え？

みんな、思わずインディの指さした方を見てしまった。その間に、インディはスタスタとカリンを連れて去っていく。

みんな はっ！いない！

ルワ・インダ しまった！

くやしがる、ルワ・インダ。

あきれ政府秘密機関。

Mr. 5 こいつら、バカね。

ルワ4 あんたたちだってひっかかったでしょ！

Mr. 2 あ、あたしたちはわざとよ！

ルワ・インダ どこがだ！

政府秘密機関 とにかく！

ルワ3 インディを追うわよ。あの小娘をうばわれるわけにはいかないわ。

ルワ・インダ おう！

Mr. 3 私たちも行くわよ。こいつらの思い通りにはさせないわ。

政府秘密機関 おー！

みんな おぼえてる！

マフィアと政府秘密機関は、別々の方向に走っていった。

S 3 ジャングルの中・さっきの近く

インディとカリンは、なんとか追いつかれなさそうなところまで逃げてきた。

インディ ふう…なんとか、にげきったみたいだな。

カリン ……。

インディ だいじょうぶかい？

カリン ……。

インディ 君の名前は？ボクはね、偉大な考古学者にして冒険家、インディアナ・ジョーンズ…。

カリン インディ・ジョーンズが好きなの？

インディ 先生たちがね。

カリン そっか。私はカリン。助けてくれてありがとう。

インディ 君はトビリモ村からにげてきたのかい？

カリン うん。村は今、国際フル組織、ルワ・インダに支配されてるの。だから私…。

インディ たすけをよびに、にげてきたってわけだ。

カリン ……。

インディ でももうだいじょうぶだよ。この偉大な考古学者にして…。

カリン それ、もうきいた。

インディ ボクが来たからには、ワルインダなんかには、

カリン ルワ・インダ。

インディ 好きにはさせないよ。

カリン それじゃ、いっしょに来てくれる？トビリモ村まで。

さあ、場所をトビリモ村にうつそう。

S 4 トビリモ村・村の広場

村の広場では、ルワ・インダが村のトビリモ族をこき使っていた。

ルワ2・じょう おーらおら、働け！

トビリモ族は、なにかを運ばされているらしい。
なにかは、よくわからない。

みんな とつちゃんのためなら、エンヤコラ。もひとつおまけに…チクシヨウ！

そのとき、つかれきったトビリモ4が転んでしまった。
そつ、よくあるパターンだ。

トビリモ4 あっ！

トビリモ5 だいじょうぶ！？

すぐに、ワルものたちが目をつけた。

ルワ3 ちよっと、そこ！なにしているの？

ルワ4 サボってるんじゃないわよ。キリキリ働きなさい！

トビリモ2 (トビリモ4役の子の名前)は、朝から具合がわるいのよ。

トビリモ3 お願いだから、休ませてあげて！

ルワ3 そつ…それはかわいそうね…。

ルワ4 ごめんなさい、気づいてあげられなくて…。

ルワ3 …なーんて、

二人 言っわけないでしょ！

ルワ2・じょう ひゃーっひゃっひゃっひゃっ！

ルワ3・ルワ4 オーツホッホッホッ！

ルワ2 小娘がひとり、逃げ出したんだ。

ルワ1 その分、お前らが働くんだ！

トビリモ3 なんてやつらなの！

トビリモ1 おい、もうよせ！

立ちはだかったのは、トビリモ族のリーダーだ。

ルワ2 なんだ、お前。オしたちに逆らう気か。

トビリモ1 オしたちだって人間だ。つかれもするし、ケガもする。

ルワ1 だ、か、ら？

トビリモ1 もうやめてくれてって言ってるんだ。いったい、どうしてこんなこと…！

ルワ2 うるせー！お前には関係ねえよ！

ルワ1 だまって働かねえなら、こつだ！

そついうと、ルワ1&ルワ2は、トビリモ1にいろんなことをし始めた。
なにかは、まかせろ。

トビリモ5 ちよっと、やめてよ！

トビリモ2 なんて、ひどいこと…！

ボス マテ!

そこに、ボスがあらわれた!

ルワ・インダ ボス!

ボス オレガハナソウ。

ルワ・インダ ハッ!

ボス ♪☂♣!

トビリモ１ なんだと!

ボス ☆♣☆!

トビリモ１ チクシヨウ:どうしようもないということか…。

トビリモ５ なんていったの?

トビリモ４ ぜんぜんわかんない。

ルワ４ フン、まだまだおこちゃまね。

ルワ２ ボスはどう言っておられたのだ。これは、

ルワ・インダ そついうお話だからしょうがない。

トビリモ族 え?

ルワ３ 冒険ものでは、悪役は原住民をいじめるって決まってるのよ。

ルワ１ じゃなきや、お話になんないだろ!

トビリモ族 ひどい!

トビリモ１ 決められたルールは守らなくちゃ。そつだろ?

トビリモ族 そんな…。

ルワ２ わかったら、とつと働くんだな。

トビリモ族 はーい…。

トビリモ族たちは、しづしづ何かを運び始める。

トビリモ族 とうちゃんのためなら、エンヤコラ…。

ルワ１ 知恵の木の実が手に入れば、オレたちは大金持ち、まちがいなしだ。

ルワ３ それまで思いつきり…あそぶわよ!

ルワ・インダ ヒャッホーイッ!

ルワ・インダのみんなは、意気揚々と遊びに行く。

しかし、その様子をじっと見つめている目があることに、彼らは気づいていなかった。

S 5 トビリモ村近くのジャングルの中の秘密基地

ジャングルの中に作られた政府秘密機関の秘密基地では、Mr. 2とMr. 3が、村の様子を偵察に行っていた、Mr. 4 & Mr. 5の報告を受けていた。

Mr. 3 どうだった?

Mr. 4 セオリー通りよ。

Mr. 5 トビリモ族をこき使って、遊びほうけてるわ。

M r. 2 ひどいやつらね…。
M r. 4 その上、たおれた子供をムチうつて、
M r. 3 なんですって!?
M r. 5 「やめて!」
M r. 4 「ええい、働け!」
M r. 5 「やめて!」
M r. 4 「ええい、はたらくのじゃ!」
M r. 5 ってヤツもやってたわ。
M r. 2 なんてやつらなの…。
M r. 3 あれ…一度やってみたかったのよね。
みんな うんうん。
M r. 4 それをすっごい生き生きと…。
M r. 5 悪役って、楽しそう…。

そこに、リーダー・M r. 1が、ビシッとやって来た。

M r. 1 みんな、だまされちゃダメよ!
リーダー!

たしかに悪役は目立つものよ。でも、それは最初だけ。後半の見せ場は、あたし
たちが作るのよ!

みんな イエッサー!

知恵の木の実は。

まっ赤になるにはまだ時間がかかりそうです。

それまでになんとか、村を取り戻せればいいんですけど。

今はとにかく、トビリモ村に入り込むことだけを考えましょ。何よりも大事な
のは、知恵の木の実をヤツらの手にふれさせないこと。

そのあとは?

忘れたの。あたしたちのモットーは、なるようになれ、よ。

おおー。

ま、私たちがあんな連中に負けるはずがないしね。

どうせ最後は正義が勝つ!のよ。

でもリーダー、トビリモ村を取り戻したとして、アしはどっするんです?

ああ、アしね。

アしよ。

アしか。

アしだわね。

アしなのよ。

まずは木の実が優先よ。今のところ、アしはアしときましょ。

分かったわ。アしとくくのね。

アしか。

アしだわね。

アしなのよ。

やることやってみてや、なるようになる!

みんな イエッサー!

Mr. 1 トビリモ村に向かうわよ！

みんな オー！

そして政府秘密機関も、トビリモ村に向かっていくのだった。

S 6 トビリモ村・みんなの家

トビリモ族のみんなが、ようやく重労働から解放されて帰ってきた。

みんな あー…つかれた…。

みんなはつかれきって、ぶっ倒れる。

トビリモ3 なに、あいつ！なに、あいつ！なに、あいつ！だいつきびい！

トビリモ2 ねえ、このままでいいの？

トビリモ1 ……。

トビリモ2 とつせん村にやってきて、やりたいほうだい。あたし、そういうのホントゆるせない。

トビリモ1 しょうがないよ。そういうお話なび。

トビリモ3 しょうがない！？

トビリモ2 しょうがない、で、あきらめちゃっていいわけ？

トビリモ1 そんなこといったって…。

トビリモ5 ももちゃん、だいじょつび？

トビリモ4 ありがとう。

トビリモ5 は、さっき倒れたトビリモ4を心配している。

それはもう、わかりやすくケナゲに。

トビリモ3 ほら、見て！この子たちのケナゲな姿。あんた、これを見ても何とも思わないの？

トビリモ5 ももちゃん、だいじょつび？

トビリモ4 ありがとう。

二人はさらにわかりやすく、ケナゲに…ここが見せ場だからね。

トビリモ2 やだ、あたし、涙が出てきた。

トビリモ3 しっかりしてよね。男のあんたが情けないこと言っていると、あたしたちまでザコに見えてくるんだから。

トビリモ1 そんなこと言ったって、どうやってあいつらと戦うんだよ。

トビリモ3 ほんと…。

トビリモ2&トビリモ3 なっさけないわねー。

トビリモ4 はぶと顔を上げると、トビリモ3の手を引っひった。

トビリモ4 ねえ、カリンは？

トビリモ3 え？

トビリモ4 カリンはまだかえってこないの？

トビリモ3たちは、顔を見あわせた。

カリンは急にいなくなつて、どこに行ったかだれも知らないんだ。でも、そのことを、トビリモ4とトビリモ5にはかくしていた。

トビリモ5 たすけをよびにいつてくれたんでしょ？

トビリモ4 だれかスゴい味方をつれてきてくれるかも。

トビリモ5 そうだよ、きっとそうだよ！

トビリモ2もトビリモ3も、なんて言っていていいか分からず、トビリモ1を見た。

トビリモ1は、しかたなく首をふった。

トビリモ1 …カリンのことは、忘れよう。

トビリモ5 どうして？

トビリモ2 カリンがいなくなつて、もう一週間もたつもの。

トビリモ3 どこに行ったのか、無事にだれかに会えたのか、なにも分らないの。

トビリモ4 そんな…。

トビリモ1 だから、忘れよう。

トビリモ4 そんなことない。カリンはぜったい帰ってくる。

トビリモ5 そうだよ。わたし、カリンをしんじてる。

トビリモ2 (トビリモ4役の子の名前)…(トビリモ5役の子の名前)…。

そのときだった。

インディがさっそうとかけこんできたんだ！

インディ そのとおりだ！

トビリモ族 だれか出てきた！

トビリモ2 だれ、あんた！

インディ このボクこそ、偉大な考古学者にして冒険家、インディアナ・シヨ…。

カリン みんな！

トビリモ族 カリン！

みんなは思わず、インディをつきとばして、カリンのまわりに集まった。

トビリモ4 カリン、ぶじだったんだね。

トビリモ族 よかったあ！

だけどそのとき、インディは地面にころがって、かわいそうなことになってたよね。

インディ …無事じゃない人も、ここにいるよ。

トビリモ族 あ、ごめん。

みんなは急いでインディを助けてあげた。

インディ 話はきいたよ。知恵の木の実をまもればいいんだね。

トビリモ2 さすが、話が早いわね。

インディ ボクが来たからには安心してよ。そのために大冒険をしてここまでやってきたんだ。

みんな 大冒険!?

インディ そつさ。ジャングルをさまよい、猛獣に追われ、川に流され、おそろしい洞窟をぬけ…。

カリン (小声で) 時間の都合で、全部カットされたけど。

インディ ここからが本番さ!それで、知恵の木の実はどこに?

トビリモ1 あれだよ。

トビリモ1が指さす先には、村の中心にそびえる巨大な神殿があった。そりゃもう、いかにもインディ・ジョーンズな神殿だ。

インディ ドーンとたつてる神殿のてっぺんに、ふしぎな木が!

トビリモ3 ナイス説明!

トビリモ5 あれはね、ナトーの木って言うの。

インディ ナトーの木。

トビリモ2 そつよ。とっても神聖な木で、私たちも勝手に近づいちゃいけないことになってるんだ。

トビリモ4 それに、あの神殿には神様がいるの。

トビリモ5 あの木の守り神、ゴッド・マザーがね。

トビリモ3 ゴッド・マザーが現れてから、私たちは自分の使命に目覚めたの。

インディ しめい?

トビリモ2 あの木を守るのが私たちの役目で、そのために私たちは生きているんだってこと。……。

カリン そのとき、だれも気づかなかったけど、カリンはちょっとさびしそうな顔をしたよね。

トビリモ1 よーし、それじゃあ、いよいよ反撃開始だ!

トビリモ族 おー!

みんなは、元気にかげだしていった。

インディと、ちょっとさびしそうなカリンだけが、後に残った。

インディ どうしたんだい、カリン。

カリン どうしたらいいのかな、と思って。

インディ なあに、このボクが来たからには、だいじょうぶさ。かならず、あのフルインダから村をたすけてあげるよ。

カリン ルワインダ。

インディ うん、それ。

カリン ほんとのこというとね、私、たすけをよびにいったんじゃないの。にげだしたの。にげだした？

カリン そう、これ以上、この村にいたくなくて、みんなをおいて、ひとりでにげだしたの。

インディ ……。

カリン ひどいよね。わたし。かってだよ。みんなは、友だちなのに。

インディ でも、あんなワルどもにこき使われてたら、にげたくもなるよ。

カリン そうじゃないの。ルワ・インダもそうだけど、それより…みんながこわかったから。

インディ みんなが？

カリン ゴッド・マザーが来るまでは、みんな自由に楽しくくらしてたの。でも、神様が来てからは、みんなはだんだんあそばなくなって、あの木をまもろうってはたらいてばかり。

インディ ……。

カリン それなのに、それをなんとも思わなくなっていく自分たちが、わたし、こわかったの。

インディ ……。

カリン インディがうらやましいよ。どこにいくのも自由だし、なにをするのも自由。今日はインディでも、明日はロボコップにもなれる。でもね、私たちはずっと、あの木を守る、もりびとよ。

やっぱりカリンは、さびしそうだった。

インディ そんなことないよ。

カリン ……。

インディ 君がのぞめば、君は今すぐ、なににだってなれるんだ。

カリン なんにでも？

インディ そうさ。ゴッド・マザーなんか関係ない。なにになるかは、君が自分で決めていんだ。まあ、個人的には、スター・ウォーズのレイア姫をオススメするけど。

カリン でも、それじゃあ、インディのお話に出てこれないよ。

インディ いいんだ。インディもロボコップもレイア姫も、ぜんぶ出てくるお話が、ボクは好きだ。

カリン そうだね。

カリンは、ちょっとホッとしたみたいだった。

インディ さあ、行こう。フルインダをやっつけるんだ！

カリン うん、行こう。

ふたりは、みんなを追いかけて、走っていった。

ボスは立ち直れない！

ルワ4 ええい、あんたたち、あれを見なさい！

ルワ4の指さす先には、やっぱりドーンと神殿があった。

Mr. 3 あれは…。

Mr. 4 ドーンとたつてる神殿のてっぺんに、ふしぎな木が！

Mr. 3 ナイス説明！

Mr. 5 あれが、知恵の木の実！？

ルワ3 そうよ。そして、あの木の実がまっ赤になったとき、ふしぎな力がやどるのよ。

ルワ1 それまでに、オレたちをたおし、

ルワ2 数々のトラップを乗りこえ、

ルワ4 知恵の木の実を手に入れることができるかしらね？

Mr. 1 私たち、国際政府秘密機関にできないことなどない！

ルワ2 いい度胸だ。それじゃあ、よーい…ドーン！

ルワ2の合図で、政府秘密機関とルワ・インダは、いっせいにかけだしていった。それをかげでコッソリ見ていたのは、もちろんインディとトビリモ族のみんなだ。

トビリモ2 …行ったわね。

トビリモ1 よし、あのなんとかとなんとかがやり合ってるすきに、知恵の木を取り戻すんだ。

トビリモ3 クーデターよ、クーデター！

トビリモ4 あたしね、あいつらボコボコにしちゃう。

トビリモ族 えっ！

トビリモ5 しちゃうよねー。

トビリモ4 ねー。

トビリモ3 あんたたち、意外にこわいこと言うわね。

カリン でもどうするの？みんなより先に、てっぺんまで行かなきゃ、木の実をとられちゃうよ。

トビリモ1 大丈夫、実はこの神殿には、古くから伝わる抜け道があるんだ。

トビリモ族 抜け道！？

トビリモ1 それを使えば、最上階まであつという間に行けるはずだ。

トビリモ4 そしたらボコボコにできる？

トビリモ5 ボコボコー。

トビリモ1 う、うん。できるよ。…(トビリモ2役の子の名前)。

トビリモ2 まかせて。たしかこのあたりにスイッチがあつて…。

トビリモ2は地面をさぐると、ふしぎなマークがついた石のスイッチを押しした。

ルワ・インダ

ギャー！

すると、神殿の中からルワ・インダの悲鳴が聞こえてきた。

トビリモ2 あれ、おかしいな…。こっちだったっけ？

トビリモ2がまたスイッチを押すと、今度は政府秘密機関だ。

政府秘密機関 ヒエー！

トビリモ2 おっかしいなあ…。

トビリモ4 ねえ、ボコボコはー？

トビリモ5 ボコボコー。

ルワ4 いい子だから、ちょっと待ってなさいね。

トビリモ2 えーい、じゃあ、これだ！

ルワ・インダ&政府秘密機関 ウッギャー！

なにがあったのか、まったく分からないけど、神殿にいたみんなが入り口からほり出されてきた。

みんな、ピクリとも動かない。

…もちろん、死んじゃったりなんかは、してないけどね。

トビリモ族 あれ…。

インディ どうやらこれは、神殿にしかけられたトラップのスイッチだったみたいだね。

トビリモ2 そうか…。知らなかった…。

トビリモ3 でも、おかげでこいつらより先に神殿に入れるわ。

トビリモ4 ボコボコする？

トビリモ5 ボコボコー。

トビリモ1 ダメだよ。

トビリモ4&トビリモ5 えー。

トビリモ3 いい？ たおれてる敵には、手を出しちゃいけないっていうのが、こういつとまきのルールなの。

トビリモ4&トビリモ5 はい。

トビリモ1 よし、知恵の木の実を取りもどすぞ！

トビリモ族 おー！

トビリモ族のみんなは、神殿にかけこんでいった。

そのとき、ボスは目をさました！

ボス ☀️☂️☛！

みんな ハッ！

ボスの声で、ルワ1とルワ2以外は、ハッと顔を上げた。

Mr.1 何があったか分からないけど、やられたわ。

政府秘密機関 チクショウー！

ルワ4 あんたたち、いつまで寝てんのよ！

ルワ3とルワ4は、問答無用でルワ1とルワ2をけりとばした。

ルワ1&ルワ2　　ウガッ！

Mr. 2　　こうしちゃいらんないわ。

Mr. 3&ルワ3　　行くわよー！

みんな　　おー！

みんなは、いっせいに神殿にかけこんでいった。

S 8 神殿の中・中くらいの階

あっちこっちさまよったあげく、ルワ・インダはトビリモ族に追いついた。
その途中経過は、省略だ。

ルワ1　　あ、お前ら！

ルワ2　　ここだなにしてやがる！

トビリモ族　　しまった！見つかった！

トビリモ族のみんなは、あつという間にルワ・インダにかこまれてしまう。

ルワ3　　あたしたちに逆らうなんて、

ルワ3&ルワ4　　いい度胸じゃない。

ルワ1　　やっちまえ！

ルワ・インダとトビリモ族の戦いが始まる。

ここは、好きなように戦ってほしい。

そして一番の見所は、ボスvsトビリモ4&トビリモ5！

トビリモ4　　ボコボコー。

トビリモ5　　ボコボコー。

ボス　　🌀🌀🌀☆☆🌀🌀🌀☆☆！

ボスは何もできずにボコボコにされちゃうんだ。

ルワ・インダ　　ボスー！

ルワ・インダのみんなは、ボスを助けようとするんだけど…。

トビリモ4&トビリモ5　　えい。

二人は、あっさりとボスを落とし穴に落っことした。

ルワ・インダ　　あー！ボスー！

ボス、ぶっ倒れる。

政府秘密機関のみんなは、むしろ感心している。

Mr. 4 さすがね。
Mr. 5 そうね、さすがね。
Mr. 3 さすがすぎて、むしろ清々しいわ。
Mr. 2 おかげで、通れるようになったしね。
Mr. 1 さ、行きましょう。

政府秘密機関のみんなは、ボスをおいてさっさと先に進んでいった。

そこに、ルワ・インダのみんなが駆けつけてくる。

だけでもう、ボスはぶっ倒れて、ピクリとも動かない。

ルワ・インダ ボス！

ルワ1 しっかりしてください、ボス！

ボス ★☆☆！

ボスは復活した！

ルワ・インダ ボス！

ルワ2 ご無事でしたか！

ルワ・インダ よかったあ…。

などと、よろこんでる場合じゃない。

ルワ3 でもどうしよう？なんだかあたしたち、やつらを待ち受けるつもりが、むしろおいてかれてるわよ。

ルワ2 ゲ！ほんとだ！

ルワ4 ふっふっふ、心配することはないわ。

ルワ1 ここでいよいよ、例のアレを使うときがきたのだ。

ルワ3 あ、アレを！

ルワ2 アレを使うのか！

ルワ4 そうよ、冒険ものの定番。

ルワ4 & ルワ1 転がってきたでっかい玉に、ひたすら追いかけられるトラップ！

ルワ2 & ルワ3 出たー！

ルワ1 このスイッチを入れたが最後、やつらは恐怖におののくことになるだろう。

ルワ4 よろしいですか、ボス？

ボス ☀。

ルワ1 それじゃあ…。

ルワ・インダ スイッチ、オン！

どこからともなく、重たい石のころがってくる音が聞こえてくる。

まさしく、みんなも知ってる、例のアレだ。

ルワ2 …で、そのでっかい玉はどこから転がってくるんだっけ？
ルワ1 この通路の奥。
ルワ3 あーそっかさっか。この通路の…って、
ルワ3&ルワ2 おーいー！

ルワ・インダのみんながふりかえると、例のアレが通路をころがってくるのが見える。

ルワ・インダ …ぎゃー！でっかい玉が転がってくる！
ルワ4 逃げるわよ！

ルワ・インダ、全力疾走！
すると、別のところから、悲鳴が聞こえてくる。

政府秘密機関

きゃー！

政府秘密機関が、同じように石の球に追いかけられて逃げてくる。

ルワ1 でっかい玉が二つになった！
ルワ2 お前らもか！
M r. 2 なにこれ、どうなってんの！？
M r. 5 分かんない、分かんない、分かんない！
M r. 1 逃げ道は！？逃げ道はないの！
M r. 4 えっと…地図によると…。
M r. 3 んなもん、見てられるかーい！

そこにまた、別の悲鳴が聞こえてくる。

トビリモ族 ウギャー！
M r. 1 三つになった！
M r. 2 だからどうなってんの！？
M r. 5 分かんない、分かんない、分かんない！

みんな、全力疾走！
そのとき、先の方の床に、なぞのくぼみが見えてくる。

M r. 1 あ、あそこに、なぞのくぼみが！
M r. 4 あそこに入れば、助かるわ！
M r. 3 みんな、飛び込んで！せーの！

みんなは、なんか大声を出しながら、くぼみに飛びこんだ。
大きな石の球はみんなの頭の上をゴロゴロところがっていく。

みんな

ふう…助かった…。

みんながホツとした、そのときだった。
みんなの目に、赤い光が飛び込んできた。
それは、真っ赤に熟した知恵の木の実が放つ光だった。
そう、なぜかそこは、神殿の最上階に出るための通路だったんだ。

S10 神殿最上階・ナトーの木の前

みんなは、びっくりして知恵の木の実を見つめてた。

カリン あれは：知恵の木の実：？

ルワー け：計算通り！

ルワ4 そ、そうよ。ここに来るには、これしか方法がなかったのよ。

みんな ウソつけ！

ルワ2 とにかく！ここまで来たら、木の実を最初にとったものの勝ちだ！

ルワ・インダ よっしゃー！

Mr.1 そうはさせないわよ！

政府秘密機関 そつよ、そつよー

トビリモー 残念だけど：。

盛り上がるみんなの前に、めずらしくトビリモーがマジメな顔して進み出てきた。
ちよっとただならぬ感じた。

トビリモー みんなの出番はここまでだよ。

みんな え？

トビリモー スイッチオン。

トビリモーがスイッチを押すと、みんなの足下の床が開いて、全員穴の中に落ちる。

穴の外にいるのは、トビリモーとカリンだけだ。

トビリモ2 ちょっと！なにすんのよ！

トビリモ3 どういうつもり！

トビリモー 知恵の木の実は、カリンにとってもらつ。

みんな え！？

トビリモー そうしなきゃいけないんだ。そう決まってることなんだ。

カリン どういうこと？

トビリモー 心配することはないよ。ゴッド・マザーが君を待ってる。君はマザーに選ばれたんだ。

カリン 選ばれた…？

インディ なるほどね。

そこに、インディが出てくる。

そう、インディはワナに引っかかってなかったんだ。

みんな インディ!

インディ 知恵の木の実をとったものは、次のゴッド・マザーに選ばれる。古文書にあった通りだ。

トビリモー お前、どうやってあのワナを…。

インディ バカにしてもらっちゃ困るな。

トビリモー なに。

インディ 主人公は、ワナにはかからない!

トビリモー え!?

インディ これは、冒険ものの定番だ!

トビリモー しまった!

みんな そんなのあり?

トビリモーが落ち込んだすきに、インディはカリンを助けようとした。だけど、トビリモーはカリンを渡そうとはしない。

Mr. 1 インディ、お願い。その子に知恵の木の実を渡さないで!

政府秘密機関 リーダー!

Mr. 1 こうなったら仕方ないわ。私たちが動けない今、インディにやってもらおうしかないもの。

インディ どういうこと?

Mr. 5 その木の実はお宝なんかじゃないの。

Mr. 4 手にした人がのろわれる、おそろしい木の実なのよ!

インディ のろわれる?

Mr. 2 だから、渡さないで!

Mr. 3 渡したら、ゼーったい、ゆるさないわよ!

インディ なんか分かんないけど、渡さない方がよさそうだね。

ルワー どうなってるの?

ルワ4 ぜんぜん分かんないけど、木の実を取られないならそれでいいわ。

ルワー&ルワ2 ダメだ!取るな—!

ルワ3&ルワ4 ダメ—!やめて—!

みんな うるさい!

ルワ・インダ なんで???

インディはまた、カリンを助けようとする。

でもトビリモーも、ぜったいにカリンを渡さない。

トビリモー カリン、はやく取るんだ。あんなヤツらの言うことを聞くことはない。あれはオ

したちの宝じゃないか。木の実を守るのがオしたちの使命だ。さあ、はやく!

カリン ……。

インディ 使命なんか関係ないよ。カリン、君は君のやりたいことをやるんだ。カリン!

トビリモー カリン!

カリンが木の実に背を向けようとした。

その時だった。
神殿に、ゴッド・マザーがあらわれたんだ。

ゴッド・マザー ……どうしました。

トビリモ族 ゴッド・マザー！

政府秘密機関 しまった！

ゴッド・マザー 早く知恵の木の実をとるのです。

政府秘密機関 出てきちゃった！

ルフ・インダ なに？なに、あいつ？

ゴッド・マザー 恐れることはありません。手を伸ばすのです。…さあ、カリン。

トビリモー とれ！

インディ ダメだ！

政府秘密機関 やめてー！

ただでカリンは、木の実をとってしまった。

その瞬間、地を裂くような音がして、みんなはぶっ倒れた。

みんな うわー！

カリンは木の実をにぎりしめたまま、立ちつくしていた。

カリン そのとき、私の頭の中に、たくさん絵や文字が、いっせいに流れ込んできました。それは、この世界の全ての知識と、そして…未来でした。

ゴッド・マザー おめでとう、カリン。これでああなたは、立派な大人になったのよ。

カリン 私は気づいてしまったんです。この世界はとても小さく、夢なんかどこにもないんだってこと。

ゴッド・マザー 知恵の木の実を手に入れたこの子は、今、全ての知識を手に入れました。

これからはこの世界の守人（もりびと）として、長く働いてくれるでしょう。

インディ カリンをどうするつもりだ！

ゴッド・マザー どうもしませんよ。彼女はもう、自分のするべきことを、自分で分かっています。

インディ なんだと！

カリンは、インディをふりかえった。

その目はとってもかなしそうだった。

カリン （インディ役の子の名前を言う）、私は気づいたの。（インディ役の子の名前）はインディじゃないし、私はレイア姫じゃない。私は、カリン。ただのカリン。

インディ ただのカリン？

カリン だから…じゃあね。

そして、カリンの姿は、ゴッド・マザーとともに消えていく…。

カリンが消えたあと、みんなは呆然とへたり込んでた。

ルワ3 なにこれ、なにこれ？どうなったの？

ルワ4 あたしたちのお宝は？

Mr. 2 ないわよ。

Mr. 3 言ったでしょ、あれはお宝なんかじゃないって。

ルワ1 どういうことだよ！

ルワ2 オレたち大金持ちになるんじゃないのかよ！

ボス すまない。

ルワ・インダ ボス！

ボス 私が君たちをだました。あれを守りたかったんだが…残念だ。

ルワ3 ボスが普通にしゃべってる…。

ルワ4 ボスっていったい…。

政府秘密機関 ボス！

ルワ・インダ えー？

Mr. 4 申し訳ありません。

Mr. 5 あっちこっち戦ってるうちに、気がついたら木の実が腐ってた作戦、

政府秘密機関

ボス 完璧だと思っただがな。

Mr. 2 私たちの力不足です。

政府秘密機関 もつしわけありません！

トビリモ3 なにこれ、どうなってんの？

Mr. 1 ボスは、本当はあたしたちのボスなのよ。

Mr. 4 で、だれも木の実をとることがないように、

Mr. 3 はーっはっはっはっ！この村はオレたちが支配した！

Mr. 5 そうはさせないわ！

Mr. 2 なに？あたしたちとやりあう気？

政府秘密機関 わー！（と戦う）あー！（と気づく）気がついたら、木の実がくさって落ち

てた！

Mr. 4 ていう完璧な作戦を立ててたのよ。

Mr. 5 たててただけど…。

Mr. 3 見事に一本取られたわ。

みんな、いっせいにトビリモ1を見た。

トビリモ1はカリンがいなくなってるから、だまっただま何も言わなかった。

トビリモ2 （トビリモ1役の子の名前）は知ってたの？

トビリモ1 …ああ。

トビリモ3 どうして（トビリモ1役の子の名前）だけ…？

トビリモ1 これは、村の年長者にだけ伝えられる秘密なんだ。三百年に一度、あの木の実がなったときには、村から一人、女の子を選びだす。新しい、ゴッド・マザーにするために。

トビリモ4 あたらしいゴッド・マザー…。

トビリモ5 じゃあ、知恵の木の実っていったい…。
Mr. 1 ナトーの木になるとい知恵の木の実…別名、真実の実。
トビリモ3 真実？
Mr. 4 そう。あの木の実を手に入れたものは、この世界の本当の姿を知ることになる。
Mr. 5 私たちが今いる、このお話の世界を抜け出して、本当の自分にもどるのよ。
トビリモ2 本当の自分？
Mr. 2 こことは違う、本当の世界の、本当の自分。
Mr. 3 冒険なんて何一つない、現実の世界に。
Mr. 1 カリンはそこに戻ったの。
トビリモ4 それじゃ、カリンは…。
トビリモ1 もう二度と、このお話の中に帰ってくることはない。
トビリモ5 そんな…。

トビリモ2は、トビリモ1をにらみつけた。

トビリモ2 それじゃ、(トビリモ1役の子の名前)は知ってて、カリンに木の実をとらせたの。
トビリモ1 ……。
トビリモ2 カリンがいなくなるって分かってて。
トビリモ1 オレだっていやだった。だから、カリンがいなくなったとき、帰ってこなければいいと思っただ。そうすれば、カリンは木の実をとらずにすんだ。
トビリモ2 ……。
トビリモ1 でも逆らえないんだ。いいかい。物語には、物語のルールがある。僕らはそれに従って生きていくしかないんだ。
トビリモ2 ……。
トビリモ1 そうだよ。ゴッド・マザーは神様なんかじゃない。審判だ。僕らがやってることは何もかも、決められたことなんだ。オレたちは、ゴッド・マザーの作ったルールの中で生きているんだよ。

その言葉に、ルフ・インダのみんながカチンと来た。

ルフ・インダ ちよーっと待った！
Mr. 2 なによ、いきなり。
ルフ1 さっきから聞いてりや、何だ。ルールだと？
ルフ2 じゃ、オレたちは悪役やれって言われたからやってるってのか！
Mr. 3 そうでしょ？
じょう&ルフ2 そうだけど。
ルフ3&ルフ4 ちがーう！
Mr. 4 いちいちうるさいわね。
ルフ3 わたしたちはね、好きでやってんのよ！
ルフ4 ゴッド・マザーなんて関係ないわ！
ルフ1 お前らだってそうだろ！

政府秘密機関

え？

ルフ2 決められたからやってただけか。楽しくてやってたんじゃねえのかよ。

政府秘密機関のみんなは、思わず顔を見合わせた。

トビリモ4 そうだよ。わたしたちは、たのしかった。だからやってた。

トビリモ5 それって、いけないことなのかな？

トビリモ3 私はそうは思わない。だって、これはわたしの意思だもの。私がそう思ってるんだもの。

トビリモ2 ねえ、(トビリモ1役の子の名前)。お話のルールを守るとは大事なことも出来ないけど、それがだれかを悲しませるなら、そんなルールは捨てちゃえばいいと思うの。

トビリモ4 だってこれは、私たちの物語だから。

トビリモ5 私たちが、自分たちで作る物語だから。

みんなも、顔を見合わせた。

トビリモ1 : そうだ、これはオしたちの物語だ！

トビリモ2 私たちが楽しめばいい。

トビリモ3 決められたルールなんかほっぽり出して、

ルワ1 好きに遊べ！

ルワ2 好きにさわげ！

Mr. 1 なにをやったっていい。

Mr. 5 どんな夢だって、冒険だって叶う。

みんな これは、私たちの物語だから。

じょう&ルワ2&トビリモ1 イカリを上げる！舵をとれ！

ルワ3 未知の世界にこぎ出すのよ！

ルワ4 今日の主人公は？

Mr. 3 世界をまたにかけた冒険家、インディアナ・ジョーンズ！

Mr. 4 海賊デイビー・ジョーンズにさらわれた、

Mr. 2 レイア姫を捜し出す。

みんな ムチャクチャだらけの物語だ！

インディ さあ、行こう！

みんな 冒険の世界へ！

みんな、前を見る。

S 1 2 どこか

みんな

そこはひよっとすると、世界で一番高い山の頂きかもしれない。そこはひよっとすると、世界で一番深い海の底かもしれない。どこまでも続く深い森の中かもしれない。見渡す限りの砂漠かもしれない。だけどそんなどこか、だれも知らない冒険の地に、きっと私たちの探し求める宝が眠っている。人はそれをバカな夢というかもしれないけれど、それでも私はそんな夢を見続けたい。だって、夢に終わりはないんだから。いつかこの宇宙が広がることをやめ、熱く輝く星々が冷たい石ころになったとしても、夢の中ではずっと空は青くて、大地には緑が生い茂っている。だから僕は夢を見るのです。果てしない夢を。だれも見なかったことな

い、宝を求めて。

みんなの見つめる先に、カリンの姿がある。

インディ
カリン！

カリン
(インディ役の子の名前)！

インディは、カリンの元に駆けつける。

インディ
ちがうよ、レイア姫。ボクは偉大な考古学者にして世界をまたにかけた冒険家、

インディ・シヨーンズだ！

カリン
でも…。

インディ
さあ、行こう。君の物語は、まだ始まったばかりだ。知恵の木の実なんていらな
いよ。帰ろう。冒険の世界へ。だれも見たことのない、未知の世界へ。

カリン
うん！

二人が走り出そうとすると、ゴッド・マザーが現れる。

ゴッド・マザー
いいのですか？

カリン
ゴッド・マザー…。

ゴッド・マザー
それでもあなたはいつか、知恵の木の実を手に入れる時が来ます。それは、
避けられない運命なのです。もう一度、傷つくことになりますよ。

カリン
それでもいい。

ゴッド・マザー
…………。

カリン
それでも今は、みんなと冒険の旅に出たい。たくさん冒険の果てに手に入れる
木の実なら、きつと本当の宝になっていると思うから。だから私は、みんなの
ころに帰ります。

再び、地を裂くような音が響き渡った。

S 13 トビリモ村

M r. 4
あれ…ここは…。

M r. 5
トビリモ村だ…。

M r. 2
みて！神殿が壊れてる！

トビリモ 4
ナトーの木もなくなってる…。

トビリモ 5
ゴッド・マザーもいない…。

M r. 3
あとは勝手にしるってわけね。

ルフ・インダ
と…と…とは…。

ルフ・インダのみんなは、ニヤリと笑う。

ボス
★☆☆☆！

ルフ・インダ
ハッ、ボス！

突然、ルフ・インダは、トビリモ4を人質に取った！

トビリモ3 あんたたち、なんのつもり！

じょう&ルフ2 なにもへったくれもあるか！

ルフ3 この村には、古代トビリモ文明の財宝が眠っていることを、知らないでも思っているの？

トビリモ族 こんどはそういうお話！？

ルフ4 小娘の命がおしかったら、素直に宝をさしだすことね。

じょう&ルフ2&ボス ヒャーッヒャッヒャッヒャッ！

ルフ3&ルフ4 オーッホッホッホッホッ！

ルフ・インダの笑いに、みんなも顔を見合わせると、やっぱり楽しそうに笑い出した。

Mr. 1 いいわ、この政府秘密機関、ムクトが相手になってあげるわ。

政府秘密機関 覚悟しなさい。

トビリモ1 仲間をさらわれて、だまっってられるか！

トビリモ族 かかってきなさい！

トビリモ2 今度の主人公は…、

みんな オレ(私)だ！

おしまい♪